

(7) 産 業

久慈河流域の市町村における産業別人口は、以下のとおりである。

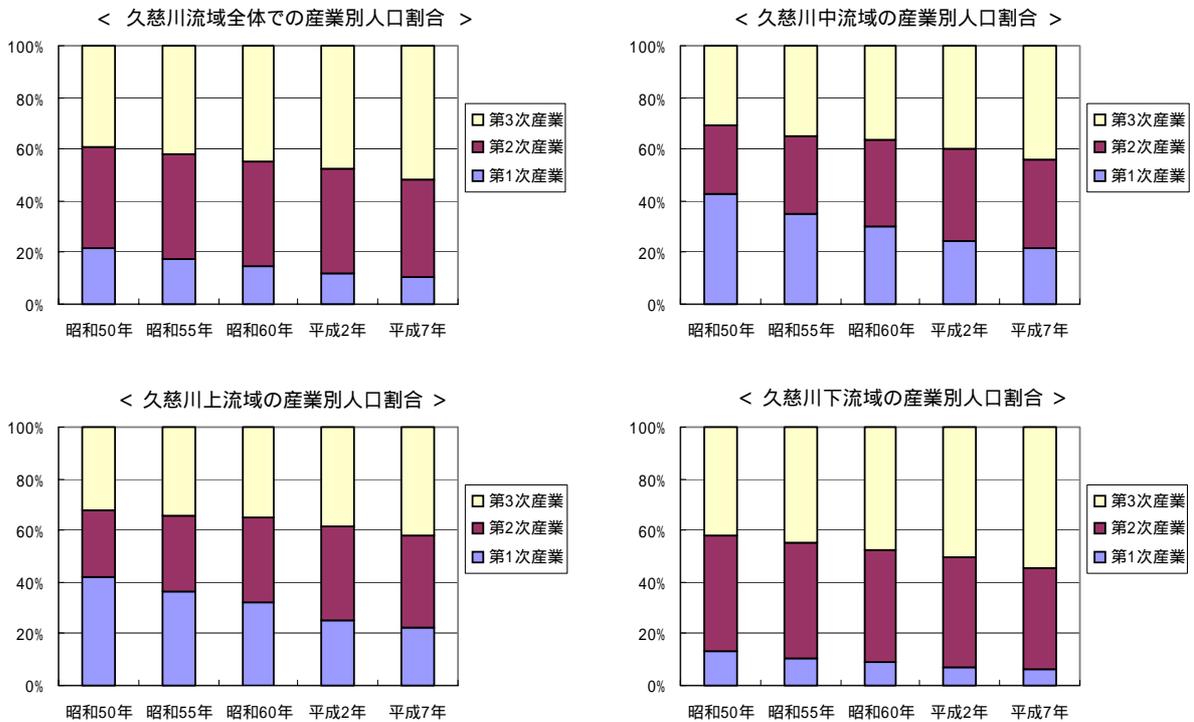
1) 産業別人口

久慈河流域の市町村における産業別人口割合をみると、流域全体では第1次産業の割合が減少してきており、第3次産業の割合が増加してきている。

上・中・下流域に分けて見ると、どの流域でも第1次産業割合が減少しており、第3次産業の割合が増加してきている。下流域では第3次産業の占める割合が大きい。

表 1-5 久慈河流域関連市町村の産業別人口の変化（昭和50年～平成7年）（単位：人）

		昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年
上流域合計	第1次産業	10,569	8,983	7,835	5,818	4,904
	第2次産業	6,399	7,331	7,960	8,459	8,002
	第3次産業	8,084	8,608	8,434	9,005	9,335
中流域合計	第1次産業	13,340	11,168	9,524	7,817	6,868
	第2次産業	8,510	9,827	10,531	11,084	10,698
	第3次産業	9,649	11,221	11,569	12,613	13,685
下流域合計	第1次産業	18,134	15,180	13,667	11,457	10,497
	第2次産業	62,597	65,588	65,915	67,712	64,963
	第3次産業	58,303	65,338	72,973	81,200	89,613
流域合計	第1次産業	42,043	35,331	31,026	25,092	22,269
	第2次産業	77,506	82,746	84,406	87,255	83,663
	第3次産業	76,036	85,167	92,976	102,818	112,633
総計		195,585	203,244	208,408	215,165	218,565



(茨城県「茨城県統計年鑑」、福島県「福島県統計年鑑」をもとに作成)

図 1-9 上・中・下流域関連市町村における産業人口割合の変化（昭和50年～平成7年）

表 1-6 流域内市町村の農業生産額・製造品出荷額等

流域市町村	農家数 (世帯)	林家数 (世帯)	漁業数 (世帯)	工業事業数 (所)	農業粗生産額 (千万円)	製造品出荷額 (百万円)	田 (ha)	畑 (ha)	耕地面積 (ha)	国有林 (ha)	民有林 (ha)	林野面積 (ha)	森林面積 (ha)	第一次 (人)	第二次 (人)	第三次 (人)	
福島県	棚倉町	1,207	735	-	79	79	104,671	1,200	413	1,613	5,576	6,415	11,991	11,996	801	3,948	3,708
	鮫川村	753	618	-	15	218	3,556	718	795	1,513	3,536	6,464	10,000	9,532	582	1,104	717
	塙町	1,261	718	-	61	241	11,591	1,040	641	1,681	8,850	8,116	16,966	16,939	1,161	2,195	2,336
	矢祭町	937	556	-	34	177	41,660	484	450	934	3,061	6,433	9,494	9,505	751	1,609	1,239
栃木県	黒羽町	1,600	776	-	62	432	39,744	2,110	394	2,504	2,932	10,507	13,439	13,426	1,490	3,159	3,638
茨城県	大子町	2,829	1,809	-	84	355	27,673	1,140	1,410	2,550	4,987	20,712	25,699	25,599	2,628	4,409	5,450
	里美村	720	307	-	27	71	3,410	334	208	542	4,069	6,336	10,405	10,237	411	845	968
	水府村	985	491	-	31	87	1,912	292	487	779	1,626	4,251	5,877	5,825	742	1,090	1,436
	山方町	1,036	655	-	27	157	15,209	354	507	861	524	5,346	5,870	5,863	743	1,446	1,927
	金砂郷町	1,776	374	-	39	165	19,308	1,110	460	1,570	305	2,522	2,827	2,827	1,394	1,899	2,692
	大宮町	2,415	430	-	104	349	87,984	1,180	1,070	2,250	295	2,435	2,730	2,688	2,070	5,047	7,425
	日立市	1,447	374	204	599	115	1,172,902	464	224	688	3,522	3,924	7,446	7,443	1,530	36,234	51,792
	常陸太田市	3,137	347	-	83	344	32,485	1,740	762	2,502	2,233	2,785	5,018	5,018	2,214	6,173	11,358
	瓜連町	568	73	-	20	62	608	315	266	581		347	347	347	409	1,301	2,687
	那珂町	3,221	151	-	105	538	72,972	1,810	1,980	3,790	68	1,175	1,243	1,241	2,976	7,094	13,835
	東海村	951	61	3	71	219	35,949	560	578	1,138	127	566	693	693	933	5,566	10,814
	上流域合計	8,587	5,212	0	335	1,502	228,895	6,692	4,103	10,795	28,942	58,647	87,589	86,997	7,413	16,424	17,088
中流域合計	6,932	2,257	0	228	829	127,823	3,270	2,732	6,002	6,819	20,890	27,709	27,440	5,360	10,327	14,448	
下流域合計	9,324	1,006	207	878	1,278	1,314,916	4,889	3,810	8,699	5,950	8,797	14,747	14,742	8,062	56,368	90,486	
合計	24,843	8,475	207	1,441	3,609	1,671,634	14,851	10,645	25,496	41,711	88,334	130,045	129,179	20,835	83,119	122,022	

上記の市町村のうち、最近以下の市町村において合併が行われた。

大宮町、山方町、美和村、御前山村 常陸大宮市 (H16.10.16 合併)

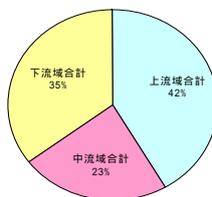
常陸太田市、金砂郷町、里美村、水府村 常陸太田市 (H16.12.1 合併)

那珂町、瓜連町 那珂市 (H17.1.21 合併)

< 農業世帯数 >



< 農業粗生産額 >



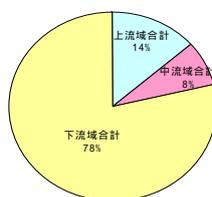
< 田 >



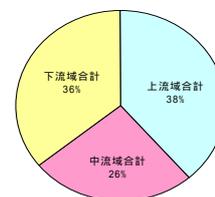
< 林業世帯数 >



< 製造品出荷額 >



< 畑 >



< 耕地面積 >



< 森林面積 >



(農林水産省, 「2000年世界農林業センサス」、等をもとに作成)

図 1-10 流域内市町村の農業生産額・製造品出荷額等

2) 農林業

農業について、田畑の占める土地利用面積の割合は上流域の市町村で高く、これに伴い農業粗生産額も上流域の市町村での生産額の割合が中・下流域の市町村と比較して高くなっている。林業についても、上流域での市町村における森林の占める土地利用面積の割合が高く（68%）、林業家数も5,000世帯を超えている。

特に八溝山周辺では、大子町、棚倉町に営林署が設置されている。八溝山は地質的にもスギ、ヒノキの生育に適しており、良質な木材が生産されている。この地方で切られるスギは「八溝杉」と言われ、江戸時代に日本三大美林の一つと言われている天竜地方の「天竜杉」が移植されたとされている。

3) 水産業（内水面漁業）

久慈川ではアユ漁が盛んであるが、その他コイ、フナなども漁獲しており、またサケ漁も有名である。

久慈川における魚種別漁獲量の経年変化は表 1-7に示すとおりであり、昭和63年～平成12年まで、毎年漁獲量は伸び続けている。魚種としてはアユ（平成12年）が多く全体の50～60%を占めている。このアユ漁獲量は全国7位（農水省統計）であり、全国的にもアユ漁が盛んな川であることが伺える。

表 1-7 久慈川魚種別漁獲量（茨城県：昭和63～平成12年）（単位：トン）

	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12
あゆ	166	190	228	229	250	260	270	300	310	330	320	321	321
こい	36	40	48	50	55	55	60	61	61	62	63	63	63
ふな	30	35	37	38	38	38	40	40	40	40	45	46	46
おいかわ	17	20	22	22	22	22	22	22	22	22	23	23	23
さけ類	35	26	28	35	22	15	10	10	18	21	18	9	6
うぐい	14	14	16	16	16	15	15	15	15	15	16	16	16
その他	25	27	33	36	37	41	43	48	50	51	52	54	56
合計	323	352	412	426	440	446	460	496	516	541	537	532	531

（茨城県農林水産部漁政課、「茨城の水産」をもとに作成）

4) 商工業

工業については、臨海部に工業地帯が集積し、これを反映して製造品出荷額は下流域の市町村が78%を占めている。また、商業については卸売業及び小売業の年間販売額についても下流域の市町村が70%以上を占め、下流域に商業機能が集積している。

5) 地場産業

久慈川流域には、昔から地域の特色を持った産業が栄え、現在も各地で続いている。以下に代表的な産業を紹介する。

八溝わさび

久慈川に注ぐ八溝川上流の太子町上野宮は、わさびの産地として名高い。わさびは下小川村檜澤口の山横目であった百姓弥兵衛の先祖が水戸義公（徳川光圀）よりわさびと朝倉山椒をいただいたので適地を探しこれを植えたのが始まりであるという。わさびの生育には、夏でも涼しく、清らかな冷たい湧き水が欠かせない。水温は 13～17、直射日光の当たらない場所にわさび田は作られる。八溝山の湧水を得て、八溝川上流では衰退した林業に代わってわさびの栽培が行われている。わさびはわが国が原産で、全国の山野に自生している。わさびが用いられるようになったのは 919 年に著された「本草和名」に薬草として記されている。食用に供した記録は「著聞集」に、後堀河天皇即位の時（1221 年）丹波の国のわさびが嗜好品として献上されたとされている。

わさびは、アルカリからし油が食欲を増進し消化を助ける。また抗菌力が強いのでカビを抑え、鮭などには欠かせない日本の薬味である。

奥久慈茶

太子町左貫、中郷地区は古くから茶の産地として知られる。特に左貫、初原で生産される佐原茶は茶人には垂涎の的であった。左貫で茶の栽培が始まったのは 1593（文禄 2 年）ごろ、地元の文殊院の僧常庵が京都の宇治から茶の実を持ち帰って播種してからだと言われている。始めの頃は、天日製茶（日乾製）で品質悪く売れなくなったので、長貫村（常陸大宮市、旧山方町）の七郎平と小祝村（常陸大宮市、旧大宮町）の藤次衛門が、1807 年（文化 4）、水戸藩の許可を受けて宇治式製茶法を導入してから、それが太子地方に伝わり発展した。「奥久慈茶」（保内郷茶）の名で知られ、現在、太子町左貫には奥久慈茶の里公園が設けられ、茶摘みや、茶もみ体験などもできる。

こんにやく

県北の久慈川に沿う山間地域の傾斜地は、砂礫質で他の農作物には適しなかったが、こんにやくには適していたため、江戸時代の 1776 年（安永 5）、常陸太田市（旧山方町）の中島藤右衛門貞詮によって加工技術が考案され、長期保存と軽量化が可能になり、販路を大きく拡大した。水戸藩は袋田には鈍弱会所を設け、農家にとっては大切な商品作物となり、郷土に大きな富をもたらしたとされる。現在でも久慈川流域では、こんにやくが盛んに生産されている。



帯刀を許された中島藤右衛門（左）とその生家（右）

赤土たばこ

たばこは水戸藩の代表的な産物であり、水府たばことして有名だったが、なかでも赤土村(常陸太田市、旧金砂郷村赤土)産の上等品は「あかつち」と呼ばれて珍重された。流霞唱和集に「常州赤土、泉州芳野 等皆爲名品」とある。また色は「丹波大内、二ホヒ八ヨシノノ^{ヌツミ}眞摘、ハリマノ土^と岐志計^{しけ} 常陸の赤土」とある。

現在も、常陸太田市(旧金砂郷町、水府村)、常陸大宮市(旧大宮町)などの山間部で、たばこは広範に栽培されている。